

「地域との関わりについてのアンケート」(国土交通省、令和元年9月実施)
結果とりまとめプレスリリース

資料1

関係人口の実態把握

令和2年2月18日
国土政策局 総合計画課

目次

1. 三大都市圏における関係人口の存在	2
2. 「関係人口」はどの程度認知されているか	3
3. 関係人口ではない人はどの程度関係人口に関心があるか	4
4. 関係人口（訪問系）は関わり先でどう過ごしているのか	5
5. 直接寄与型は関わり先でどう過ごしているのか	6
6. 東京都在住の関係人口（訪問系）は関わり先でどう過ごしているのか	7
7. 大阪市在住の関係人口（訪問系）の関わり先でどう過ごしているのか	8
8. 関係先と関わりを続けるために必要な要素	9
9. 関係先と関わりを深めるために必要な要素	10
10. 関係人口（訪問系）が求める地域との多様な関わり	11

1. 三大都市圏における関係人口の存在

- 三大都市圏（補足資料P42、参考1参照、以下同じ）の18歳以上の居住者（約4,678万人）のうち、約2割強（約1,080万人）が関係人口として、日常生活圏、通勤圏等以外の特定の地域を訪問している。

三大都市圏居住者の日常生活圏、通勤圏以外の地域との関わりの状況

推計の概要

- 三大都市圏に居住する約3万人に対してインターネットアンケートを実施（18歳から99歳の男女、28,466人が有効回答）
- 調査対象地域の18歳以上の人口（約4,678万人）に基づき、男女比率及び年齢構成を踏まえて拡大推計を実施

用語の定義

【関係人口(訪問系)】

日常生活圏、通勤圏、業務上の支社・営業所訪問等以外に定期的・継続的に関わりがある地域があり、かつ、訪問している人（地縁・血縁先の訪問（帰省を含む）を主な目的としている人を除く）

〈大分類〉…地域における過ごし方に応じて分類

【直接寄与型】

産業の創出、地域づくりプロジェクトの企画・運営、協力、地域づくり・ボランティア活動への参加等

【就労型】

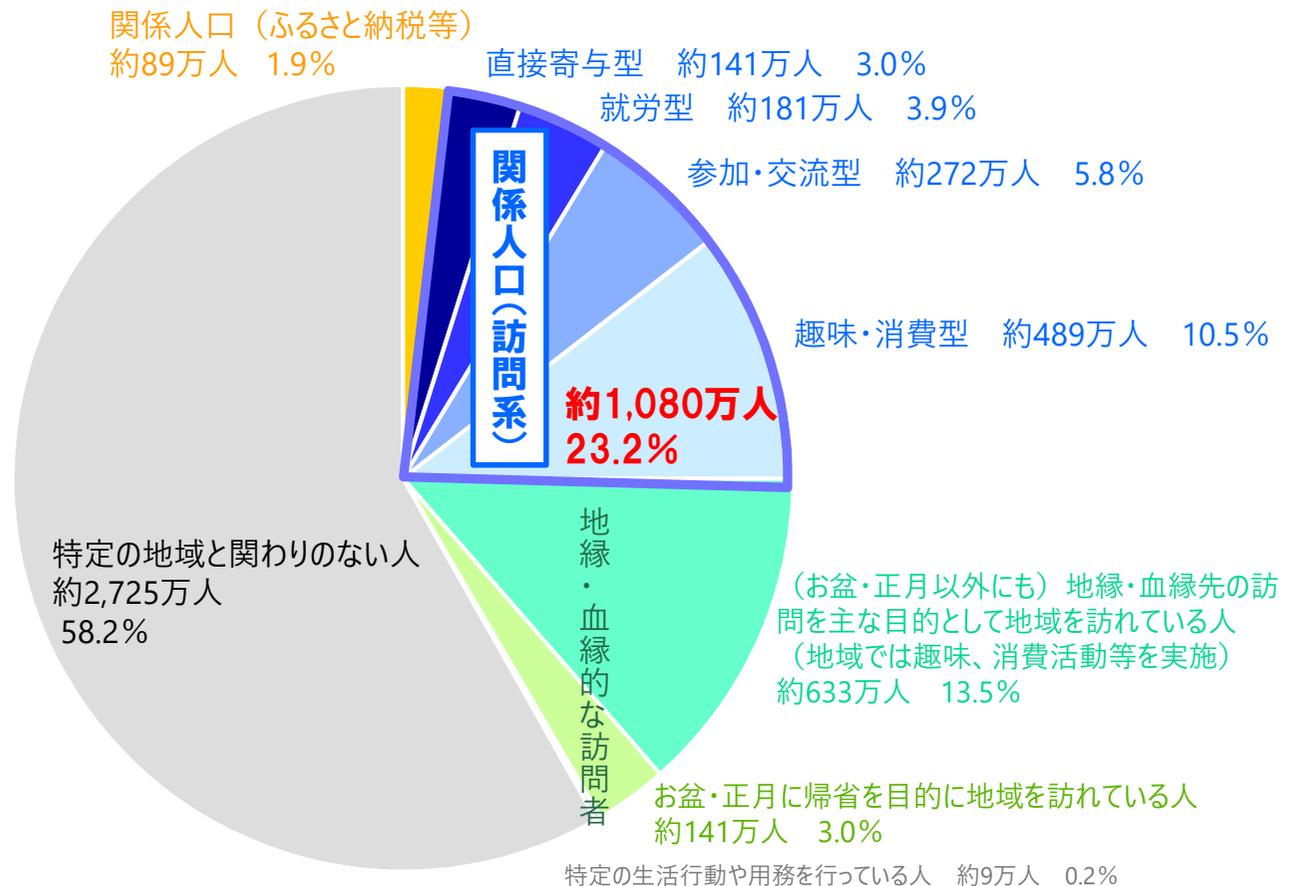
地域においてテレワーク及び副業の実施、地元企業等における労働、農林水産業への従事

【参加・交流型】

地域の人との交流やイベント、体験プログラム等に参加

【趣味・消費型】

地縁・血縁先以外で、地域での飲食や趣味活動等を実施（他の活動をしていない）

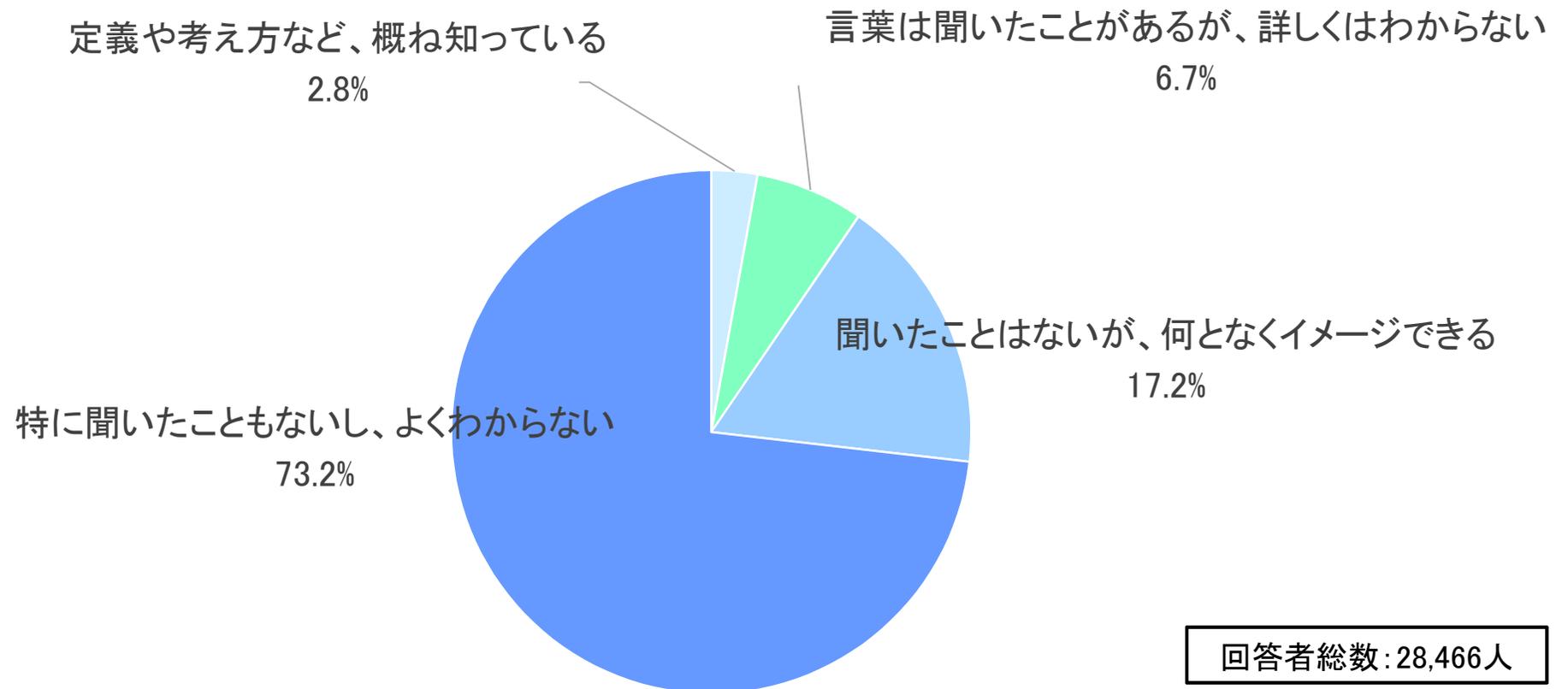


(出典)「地域との関わりについてのアンケート」(国土交通省、令和元年9月実施) (三大都市圏の関係人口、人数ベース)

2. 「関係人口」はどの程度認知されているか

- 三大都市圏居住者には一定程度の関係人口が存在しているが、言葉の認知度は非常に低い状況。

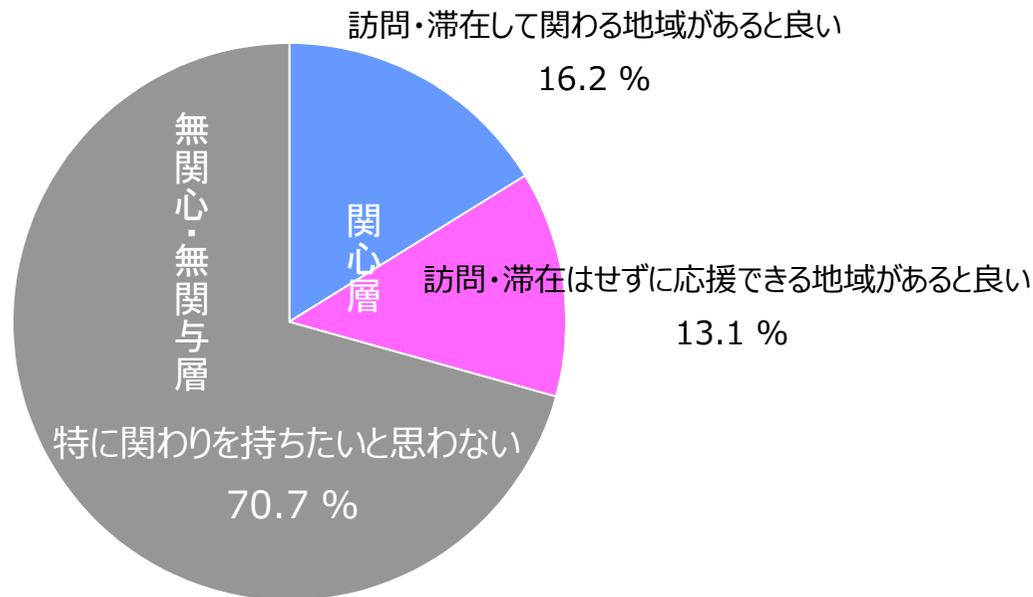
三大都市圏居住者の関係人口の認知度



3. 関係人口ではない人はどの程度関係人口に関心があるか

- 特定の地域と関わりのない人に対して、居住地等以外への関わりの希望を確認したところ、「訪問・滞在して関わる地域があると良い」と回答した人は、約16%であった。
- また、「訪問・滞在はせずに応援できる地域があると良い」と回答した人は、約13%であり、居住地等以外と何らかの関係を求めている人が約3割存在している。
- 一方で、「特に関わりを持ちたいと思わない」と回答した人が約7割存在している。

特定の地域と関わりのない人の居住地等以外への関わりの希望



回答者総数: 17,405人

「滞在しない」、「特に関わりを持ちたいと思わない」理由

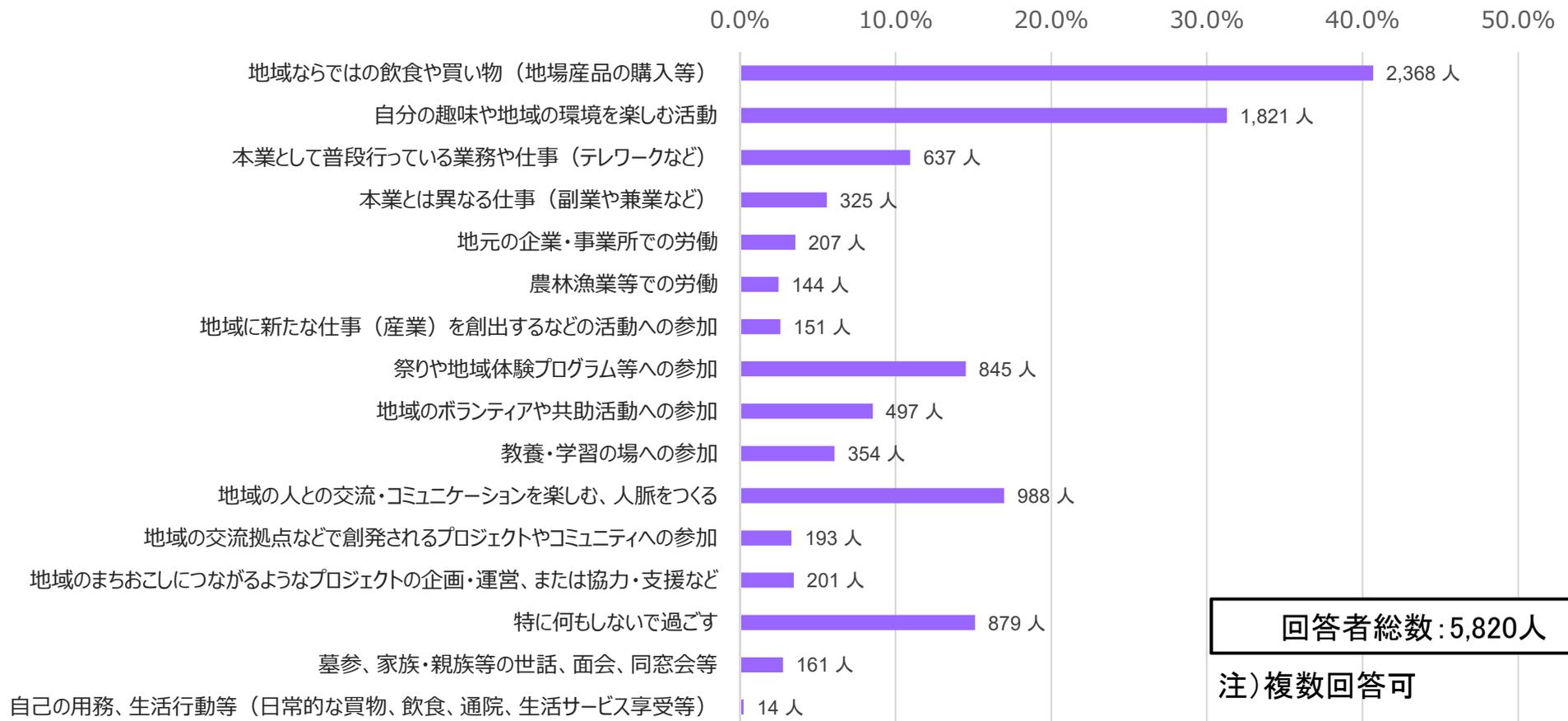


(複数回答可)

4. 関係人口(訪問系)は関わり先でどう過ごしているのか

- 関係人口(訪問系)の関わり先での過ごし方については、地域ならではの飲食や買い物、自分の趣味や地域の環境を楽しむ活動を行っている人の割合が高い。
- また、地域の人との交流や人脈づくり、祭りや地域体験プログラムへの参加を行っている人がある程度の割合で存在する。

関係人口(訪問系)の関わり先での過ごし方



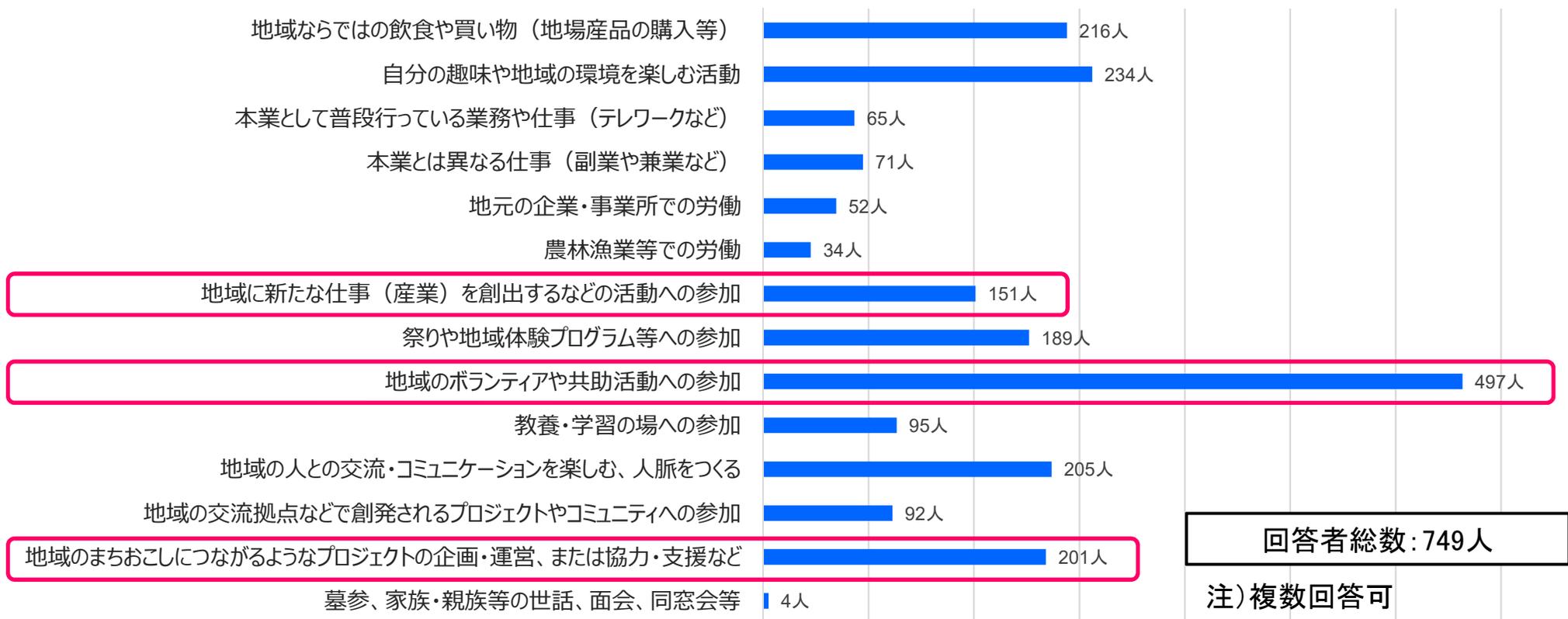
5. 直接寄与型は関わり先でどう過ごしているのか

- 直接寄与型における地域の内発的发展に直接寄与する活動は、“地域のボランティアや共助活動への参加”がメインとなっている。
- さらに、“地域のまちおこしにつながるようなプロジェクトの企画・運営、または協力・支援など”への参加も比較的高い割合で確認できる。
- 直接寄与型の人は、地域の人との交流やコミュニケーション、人脈づくりを意識している。

直接寄与型の地域での過ごし方

※ □ は、地域の内発的发展に直接寄与する活動

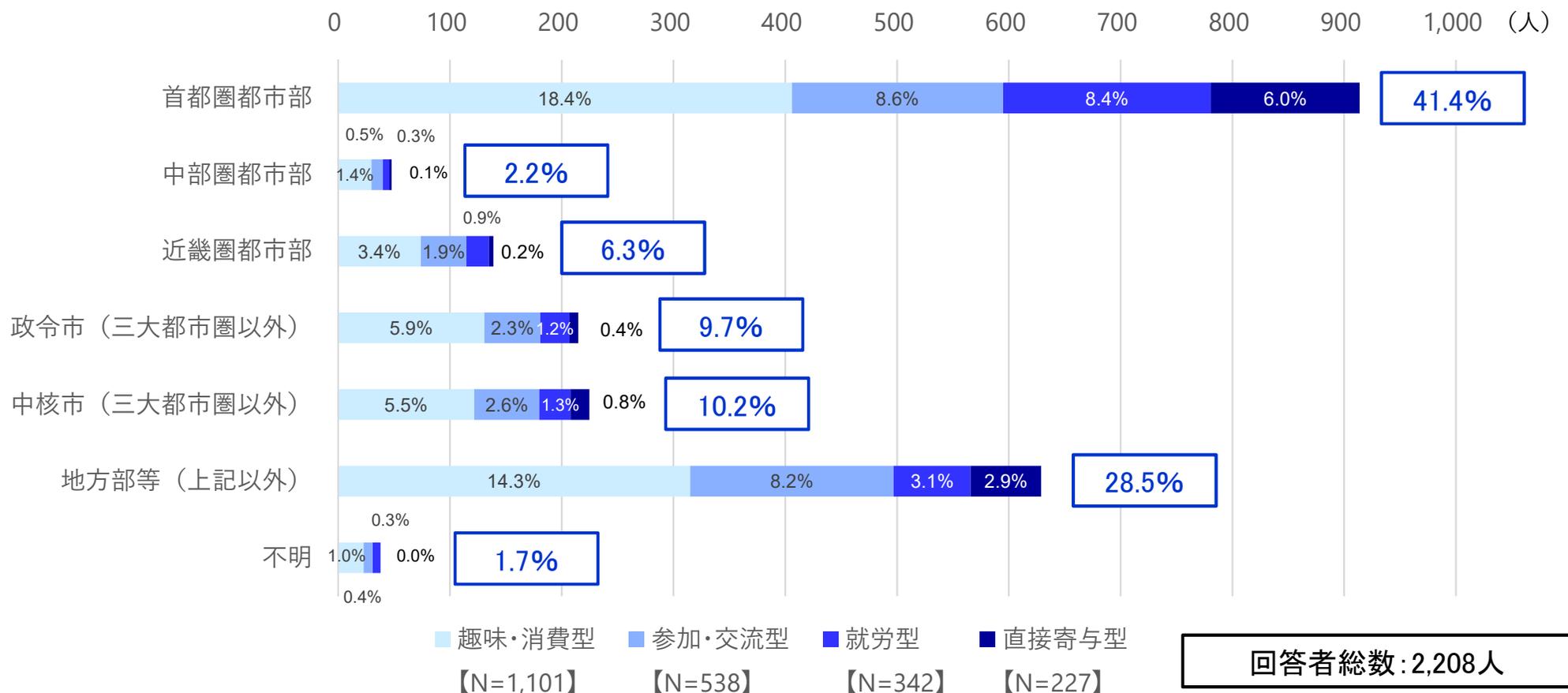
0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0%



6. 東京都在住の関係人口(訪問系)は関わり先でどう過ごしているのか

- 東京都在住の関係人口(訪問系)のうち、約5割は今回の調査対象範囲である三大都市圏への関わり(約4割は首都圏都市部)となっており、直接寄与型については、約6割が三大都市圏への関わりとなっている。
- 一方、三大都市圏、政令市及び中核市以外の地方部への関わりを持っている人が約3割存在しており、都市部から地方部に赴いている関係人口の存在が確認できる。

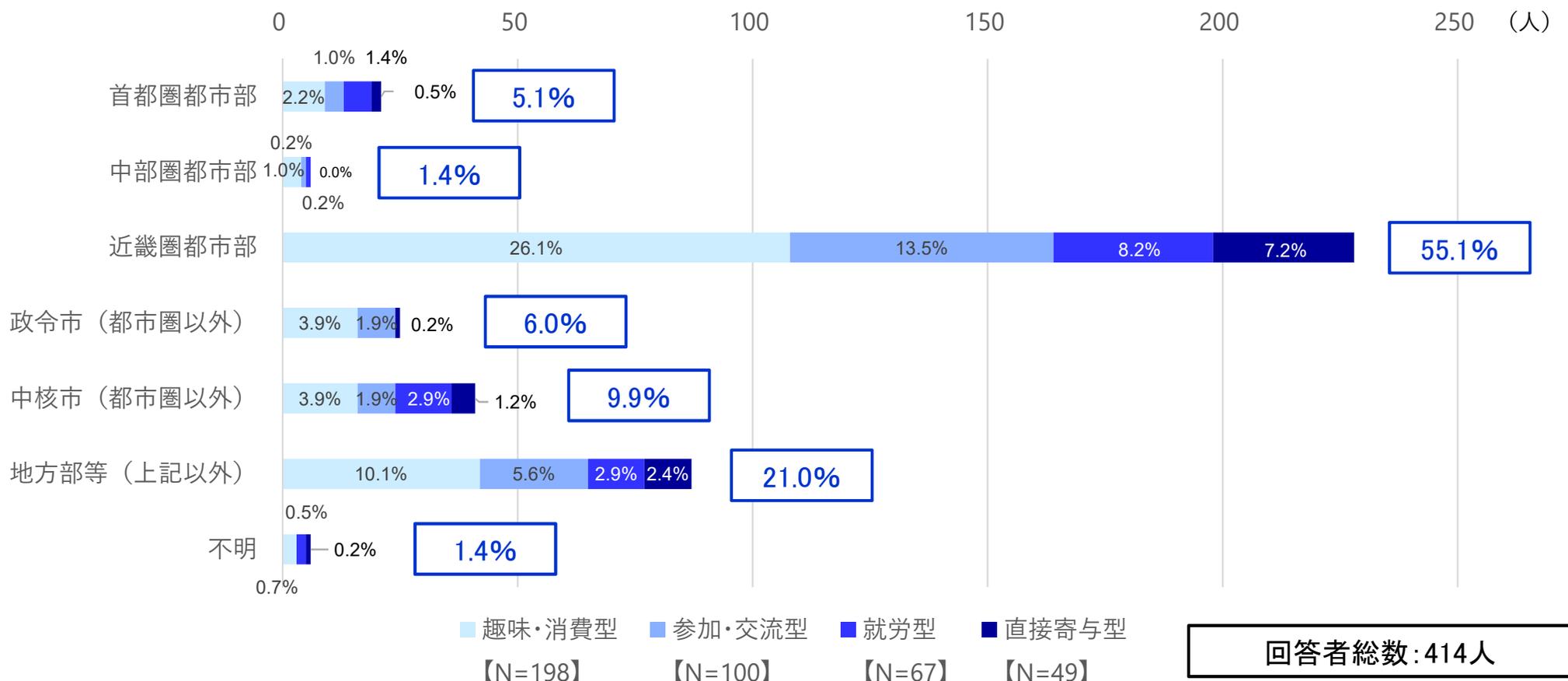
関係人口(訪問系、東京都在住者)の関わり先及び過ごし方



7. 大阪市在住の関係人口(訪問系)の関わり先でどう過ごしているのか

- 大阪市在住の関係人口(訪問系)及び直接寄与型については、約6割強は今回の調査対象範囲である三大都市圏への関わり(関係人口(訪問系)の約5割は近畿圏都市部)となっている。
- 一方、三大都市圏、政令市及び中核市以外の地方部への関わりを持っている人が約2割存在しており、東京圏と同様に、都市部から地方部に赴いている関係人口の存在が確認できる。

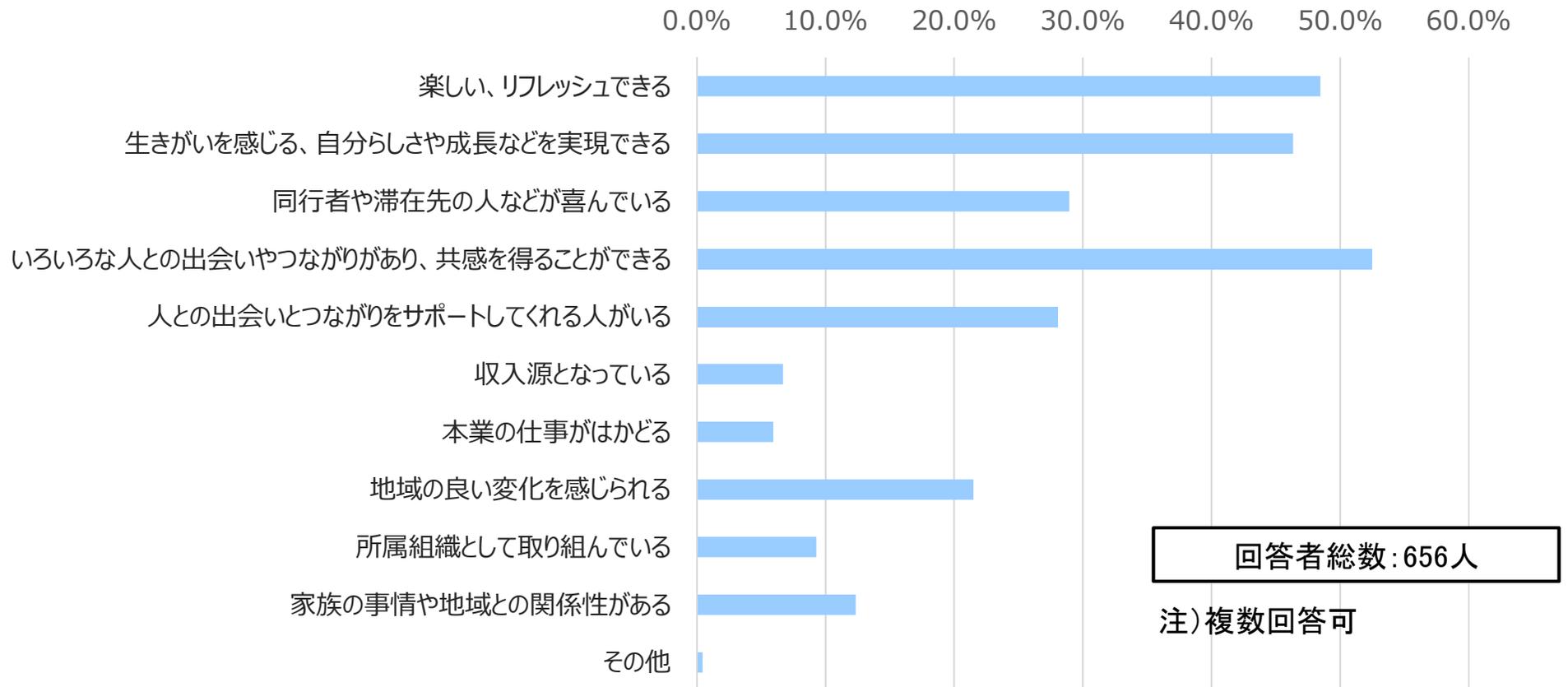
関係人口(訪問系、大阪市在住者)の関わり先及び過ごし方



8. 関係先と関わりを続けるために必要な要素

- 地域の内発的発展に直接的に寄与していると想定される“直接寄与型”が考える“地域との関わりを継続したい理由”としては、人との出会いやつながりがあることや共感を得られることが一番多くなっている。
- また、楽しい、リフレッシュできる、成長できる等、自己の欲求を満たす目的の人の割合も高い。
- 人や地域との出会いをサポートし、自己実現の機会を設けることが重要であると思料できる。

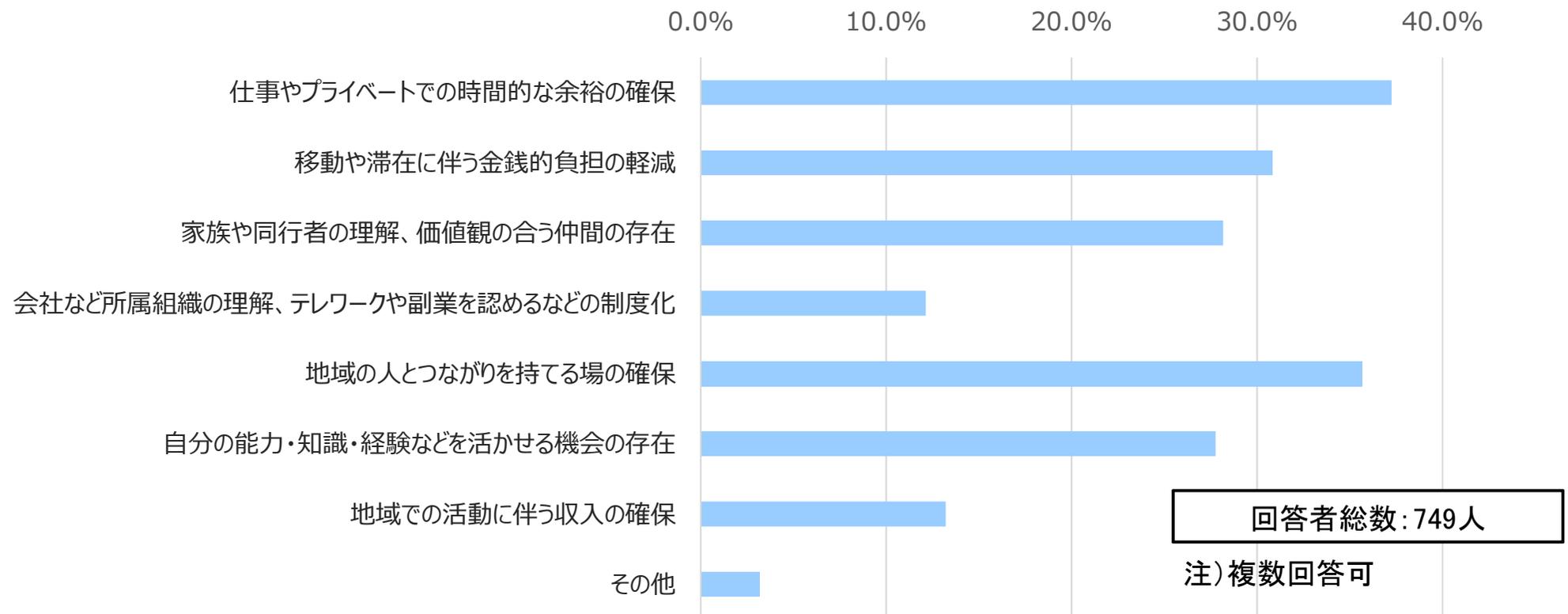
直接寄与型が考える地域との関わりを継続したい理由



9. 関係先と関わりを深めるために必要な要素

- 地域との関係性を深めたい人が比較的多く確認できる「直接寄与型」が考える地域との関係性を深めるために必要な要素を分析すると、時間的な余裕の確保に次いで、“地域の人とつながりを持てる場の確保”があげられている。
- また、ライフスタイル的な要素としては、先の時間的な余裕の確保のほかに、“家族や同行者の理解、価値観の合う仲間の存在や”自分の能力・知識・経験などを活かせる機会の存在”があげられている。
- 一方で、“会社など所属組織の理解、テレワークや副業を認めるなどの制度化”、“地域での活動に伴う収入の確保”はあまりあげられていない。

直接寄与型が考える地域との関係性を深めるために必要なもの



10. 関係人口(訪問系)が求める地域との多様な関わり

- 関係人口(訪問系)のうち、**直接寄与型**は、地域の人とのコミュニケーションを深めたり、多くの人とのつながりを持つことや地域のためになることにチャレンジしたいなど、**関わり**の深化を求める傾向が強い。
- 一方で、**趣味・消費型**は“いま以上の関係性は求めている”人が5割を超えるなど、関わり
- また、**参加・交流型**では、地域との関わりを深めたいという傾向が若干強まることから、**地域との関わりを深めるきっかけを創出することが重要**と思料される。

関係人口(訪問系) 大分類ごとの関わり

